

内子ねき歩き参加者募集中!

ねき歩き専属ガイドがご案内するまち歩き。暮らす人がいる分だけ、独自の文化や歴史があります。楽しく、ゆっくりと、内子の魅力を紐解くねき歩き。皆様の参加をお待ちしています!

申し込みはホームページから!

🔍 ねき歩き で検索!

www.we-love-uchiko.jp/stroll/stroll4/

※ 詳しくは内子町公式観光サイト「内子さんぽ」をご覧ください。

🔍 内子さんぽ で検索!

www.we-love-uchiko.jp/

まち歩きアプリのご案内



ねき歩き全コース上で
ナビゲーションサービスを
ご利用いただけます。



QR Translator



Scan to get the info in
your own language.

TOUR 01

Uchiko Guide Tour #01

Sedawa

When walking slowly through the streets, you will notice the pale yellow wattle-and-daub mud walls. The yellow mud walls, interwoven with white plaster create a unique impression.



コース

ぜ
だ
わ

内子ねき歩き





専属ガイドツアー
内子ねき歩き

せだわコース

美しいせだわ（路地）を巡りながら歩く「せだわコース」。国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された町並みの新たな表情に出会えるまち歩きです。内子の風や音とともに、江戸から明治時代の世界に心を寄せ、これからを思うまち歩き。ねき歩きガイドがご案内します。

Neki Aruki♪



「ねき歩き」とは？

「ねき」とは、内子の方言で「近く」「近場」のこと。近くの小エリアを愉しむ新たなまち歩きです。

所要時間 90分 距離 600m

参加費 お1人様 2,000円

(★お茶処でのお茶代や、木蠟資料館上芳我邸の入館料を含みます)

定員 1～15名

集合場所 八日市・護国町並保存センター
(内子町城廻211番地)

集合場所までのアクセス
① JR内子駅から徒歩約25分。
② 内子・五十崎ICから車で約5分、ICより国道56号線を右折し松山方面へ。

※お車でお越しの際は、町並駐車場（有料）をご利用ください。
※集合場所の位置は中面マップに記載しております。

申込方法 内子町公式観光サイトの「おさんぽコース（ガイド付き）」を確認の上、ホームページからお申し込みください。
www.we-love-uchiko.jp/stroll/stroll4/

ねき歩き で検索！

問い合わせ先 内子町ビジターセンター(A・runze)
☎0893-44-3790
FAX0893-44-3798

〒791-3301 愛媛県喜多郡内子町内子2020番地
開館 9:00～16:30(4～9月17:30) 木曜休館

散策の際には歩きやすい服装と靴でどうぞ。
また、車などに充分注意し、各自で責任を持って行動してください。

内子ねき歩き嚟

芳我家の人々

語り手 秀芳我家4代目
芳我明彦さん

内子を訪れた観光客から「蠟燭の町」という言葉をよく聞きます。たしかに蠟燭も作られてはいましたが、内子の繁栄をもたらしたのは白色の白蠟でした。ハゼノキの実から作られる緑がかった木蠟が生蠟で、白蠟は生蠟を天日に晒して作られます。効率的に晒す技術、伊予式蠟花箱晒法を考案したのが本芳我家初代・弥三右衛門でした。それまでの工程は、生蠟をカンナで削って箆で晒すという大変手間のかかるものでした。弥三右衛門は融かした生蠟を水に入れて蠟花を作り、それを蠟蓋という浅い木箱に入れて晒す方法を考案したため、手間と時間の大幅な短縮が図られました。その後も生蠟を融かすのに蒸気を利用するなど、技術革新を続けました。

芳我家を含めた20数軒の晒し蠟業者が生産する白蠟で、内子は全国でも有数の木蠟生産地になり、国内や海外に出荷された白蠟は、石

鯨や鬘付け、蠟燭などに加工されました。

上芳我家で生まれた私の祖母・寿美子の話では、上芳我の建物は芳我伝衛が設計し、当時の金額で一万円以上かかったそうです。伝衛の父・弥衛美は『そこまで立派なものを作る必要はない』と難色を示しましたが、伝衛は『構えが大きい方が軽く見られず、対等に商売ができる』と説得して建設したといっています。

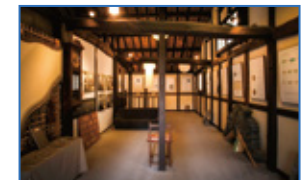
幼少時代の祖母のおやつは、ダス缶に入ったカキモチと蒸し芋程度で、贅沢をした記憶はないそうです。祖母の口癖は『簡便』（方言で儉約の意）でした。私が子どもの頃、上芳我の家族が帰省した時には、よく遊びに行っていました。背比べをした記憶もあります。



秀芳我家前にて。芳我明彦さん(写真右端)とご家族。

せだわコース

八日市・護国の町並み（重要伝統的建造物群保存地区）の北側の入り口にあり、地域住民が主体となった町並み保存運動の拠点となる施設。百姓一揆の柱傷が残る江戸時代後期の建物で、町並み保存運動の取り組みや壁の構造などを紹介しています。



伝統的な町家の佇まいと暖簾がうまく調和している一例。表通りに面した町家の佇まいは、店売りや涼み用などに使われた床几（バツタリ）、明かり取りの虫籠窓が配されています。



スタート（集合場所）

① 八日市・護国町並み保存センター

左官さんの
鍍絵ギャラリー

高昌寺

町並駐車場
P

涅槃像

常夜灯

文政8年（1825）建立

清正ひろば

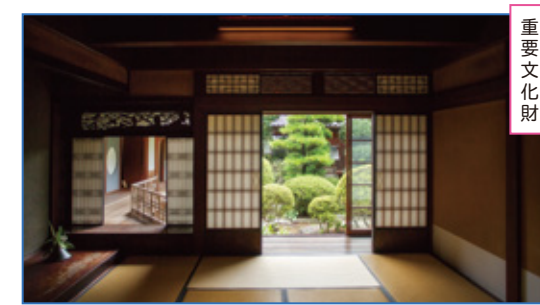
稻荷神社

清正ひろば

③ 清正川
町家の裏には畑などの農地がありました。清正川は農地を潤し人々の暮らしを支える大切な河川のひとつでした。溝や狭い水路は「いでこ」とも言います。

④ 木蠟資料館上芳我邸

重要文化財



木蠟とは、ハゼノキの果実を原料にした固形の油脂です。明治時代、精製漂白した木蠟が高い価値を生みました。上芳我邸は、木蠟生産で財を成した本芳我家の筆頭分家上芳我家の屋敷で、本家同様に江戸時代から明治時代に木蠟生産で栄えた商家です。居住施設と木蠟生産施設併せて10棟が、国の重要文化財に指定されています。（**年末年始休館**）

⑥ 青屋町（旧芳我新道）

町が道路の新設を計画した際、本芳我家4代目当主芳我保氏より土地の寄付を受けて作られた道。かつては「芳我新道」と言われました。

⑤ せだわ（路地空間）

内子では、路地のことを「せだわ」といいます。隣の家との1mほどの間に道路や水路を残している空間です。町並み保存地区の建物は、上部の桁や破風もきちんと形を塗りだしているため、せだわに独特の面白い空間が現れています。奥に行くほど、漆喰大壁から納屋、板塀などが続き、趣のある変化が楽しめます。



上芳我家と中芳我家の間にある「せだわ」。奥には背の高い蟻垣が見え、明治時代の晒し場を今でも守り続けているかのよう。

大村家住宅（非公開）

重要文化財

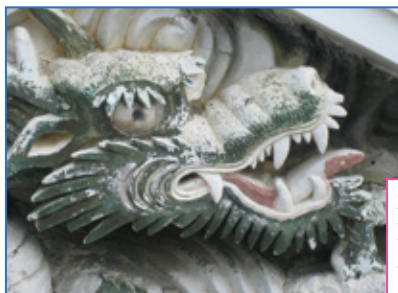
文化遺産のひとつ、内子新四国八十八ヶ所が点在。明治27年（1894）から時を刻む。

内子町立内子中学校

内子中学校は芳我家から寄贈された土地に建造されています。かつては蟻晒し場でした。

⑦ 本芳我家住宅（母屋は非公開・庭園は見学可）

本芳我家住宅は、木蠟生産と海外輸出で財を成した豪商の屋敷。通りに面した建物には、鍍絵の鶴と瑞雲、波間に泳ぐ霊亀が施されています。霊亀とは、とても長生きをする空想上の亀だそう。また、ここのみだけしか見られない亀甲の海鼠壁、龍の懸魚など意匠が緻密で優雅なものも見所。



重要文化財



ねぎ歩きガイドと歩く場合は、本芳我家庭園裏にある「せだわ」もご案内します。

ゴール
杵形

町家資料館

上ノ山天神社

※「要諦」に記してご案内します。

ねぎ歩きコース内スポット
その他のスポット